

## 地球惑星科学連合加盟学協会の会員女性比率の現状

## Current status of women's ratio of the JPGU members

# 男女共同参画委員会 前田佐和子 [1]; 杉田 文 [2]

# Maeda Sawako Gender Equality Committee[1]; Fumi Sugita[2]

[1] -: [2] 千葉商大

[1] -: [2] CUC

地球惑星科学連合には 46 学協会が加盟し、学会員総数およそ 5 万 3 千人となっている。本報告では、現在までに 22 学協会より会員の男女構成比に関するデータをいただいたので、その集計結果をまとめる。データは未だ収集中であり、本報告の集計結果は参考数値であることをご承知おきいただきたい。

本連盟加盟学会 22 学協会的一般会員における女性会員比率の平均は 5.9 %、学生会員における女性会員比率の平均は 20.7 %であった。一般会員における女性会員比率は、日本の女性研究者の割合 11.1 %に比べると少ないが、生物系を除く理学系の平均 4 から 10 % (男女共同参画学協会連絡会、2005) に相当する比率である。各学会を大きく主に固体を扱う地質・地理系と主に流体を扱う気象・海洋系に分けて別々に平均をとると、前者は 6.8 %と女性比率が高く、後者は 4.8 %と比率が低かった。しかし、学生会員の女性会員比率は地質・地理系は 21.0 %、気象・海洋系は 20.5 %と分野間における違いは無いことがわかった。男女共同参画学協会連絡会 (2005) は、学生会員における女性会員比率と一般会員における女性会員比率の割合を "格差" として、生物系で格差が 1.5 倍前後、それ以外の理学系では 2 倍前後、工学系では 5 から 10 倍と報告している。本連盟加盟学会では、地理・地質系学協会では 3 倍前後 (2.3 ~ 4.0 倍)、気象・海洋系では 5 倍前後 (2.6 から 8.3 倍) となり、いずれの学協会も一般理学系学協会より格差が大きい。特に気象・海洋系ではより工学系に近い大きな格差であることがわかった。すなわち、本連盟加盟学協会では専門職を目指す同じ分野の専門職につかない (つけない) 割合が一般理学系学協会より高い、あるいは、近年学生における女性比率が急激に増加していることを意味する。

世代別のデータを提出していただいた 6 学協会の世代別女性比率をみると、一般的に 20 歳台で 20 %前後と最も女性比率は高く、30 歳台で 10 %を割り、40 歳台では 5 %、50 歳台 2 %前後と 50 歳台までは世代が若くなるごとに大きく増加する。各学協会とも絶対人数は 30 歳台が最も多く、20 歳代はその半分程度であるため、20 歳代と 30 歳代の絶対女性会員数には大きな違いはないが、それより上の 30 歳代以上では世代が上がるごとに女性会員の絶対数も少なくなっている。